

海の魚を食べる際、魚の口の中や鰓（えら）の部分に白っぽいダンゴムシのような虫（写真1、2）がひそんでいるのを見たことはありませんか？もし、見たことがなければ、マダイ、マルアジ、カイワリ、アカムツなどの口の中、サヨリの鰓を調べると見つけやすいと思います。この虫がウオノエ類です。ウオノエ類は、見た目の通りダンゴムシやダイオウグソクムシに近い仲間、れっきとした甲殻類です。

ウオノエを漢字で書くと、「魚の餌」となります。ということは、魚の口の中で見つかるウオノエ類は、魚に食べられかけているのでしょうか？答えは「ノー」です。ウオノエ類は、魚の口腔内（こうこうない）や鰓腔内（さいこうない）などをすみかとする寄生虫なのです。「魚の餌」という名前とは裏腹に、この寄生虫は魚の血液を餌とします。

ウオノエ類は生まれてすぐ魚に寄生するのではなく、しばらくの間、水中で遊泳生活を送ります。この時期の生態はよくわかっていないのですが、遊泳生活中のウオノエ類がちりめんじゃこに混じって見つかることがあります。つまり、若いウオノエ類（写真3）は、いわゆる「チリメンモンスター（略してチリモン）」でもあるのです。

「魚に寄生するウオノエ類を、人間が間違っても食べてしまっても大丈夫ですか？」という質問をしばしばお受けします。結論から言うと、ウオノエ類を食べても問題ありません。江戸時代の『随観写真（ずいかんしゃしん）』という古文書によると、ウオノエ類の1種であるタイノエ（写真4）は「鯛之福玉（たいのふくだま）」と呼ばれ、長州（今の山口県）では食用とされていたそうです。また、以前、テレビ番組で、探偵役に扮した出演者の方が調理されたウオノエ類を食べて美味しいと言っていました。私も食べてみたところ、エビのような風味で美味でした。食卓に上った魚にウオノエ類が見つかったとしても、気にしすぎる必要はないと言えます。

山内健生（自然・環境評価研究部）



写真1 魚の口腔内に寄生するウオノエ類



写真2 魚の鰓腔内に寄生するウオノエ類



写真3 ウオノエ類の若い個体



写真4 タイノエの雌成虫 (1目盛りは1mm)

ひとはく通信

ハーモニ

87

Dec. 2014



特集 丹波竜の学名決定！

第一次発掘（2007年）の様子。尾椎（尻尾の骨）がずらりと並んでいる状態で発掘された。
恐竜の骨の化石が関節状態で発見されたのは日本初だった。